



部活動地域移行に関する情報をお届けします /

まつチャレ通信



新年度が始まり、休日の地域クラブ活動もいよいよ本格始動です！

今号の「まつチャレ通信」では、地域で子どもたちの学びや成長を支える「まつチャレ」を特集します。今後は、スポーツに限らず、文化や伝統芸能など、さまざまな分野で活躍する多彩な団体をご紹介します。活動の舞台裏や、子どもたちとの関わりに込められた思いをお届けします。地域に根ざした学びの場を知ることで、きっと「参加してみたい！」と思える出会いが見つかるはずです。



コーディネーターが行く！まつチャレPICK UP (第1回)

今月から、身近な「まつチャレ」を紹介する新コーナーが始まります。松本市のコーディネーターが「まつチャレ」に突撃取材！今後も定期的に、地域移行クラブ「まつチャレ」を紹介していきます。



EYL FC (エイル エフシー)

指導：平川 大智
活動場所：松島中学校、島立運動広場

「一人のプロ選手より、1000人のサッカー好きの子どもたちを育てたい。」



平日の午後、市内4つの中学校から子どもたちが自転車で島立運動広場に集まってきました。EYL FCは、今年発足したばかりの若いチームです。クラブ員は全員1年生で、現在27名。中には、中学生になってからサッカーを始めた子もいるそうです。

「うちはこれから伸びていくチーム。みんなの成長が楽しみです」と、副代表の上條大輝さんにはこやかに語ります。

チーム名「EYL」は、“Enjoy Your Life (人生を楽しもう)”という願いに由来しています。サッカーを通して、子どもたちには楽しい人生を歩んでほしい——。ボールを追いかける子どもたちの瞳は、キラキラと輝いていました。

insta : https://www.instagram.com/eyl_fc/
連絡先 : eyl.fc2024@gmail.com (平川)



波田合唱クラブ

代表：横内 正、指導：折橋 章子
活動場所：波田中学校、市内公民館

「楽しく 仲良く 一步一步向上」



波田中学校と清水中学校から計16名が参加し、コンクールに向けた合唱練習に取り組んでいました。練習はパートごとや全体で行われ、「今までは少人数の部活動だったけれど、大人数でやると楽しい」「他の学校がどんな歌い方をしているのか勉強になる」と、生徒たちはすでに交流を深めている様子でした。

取材に訪れた日は、波田中学校の音楽室での活動でした。清水中学校の生徒たちは、電車やご家庭の送迎を利用して、土曜日の朝から練習に参加していました。

今後は、松本市内の公民館などにも活動の場を広げ、より多くの合唱好きの中学生が集まってくればと、代表の横内さんは話します。これからどんな歌声が創られていくのか、今後は楽しみなクラブです。

連絡先 : tyokojzf@yahoo.co.jp (横内)





読者の皆さんからいただいたご意見にお答えします！

Q

吹奏楽部の地域移行の状況について教えてください。

A

吹奏楽については課題も多く、今後はさまざまな形での実施が考えられますが、現時点では、学校を会場として活動を行う形が中心になると想定しています。

吹奏楽については、練習場所や楽器の管理（音楽室や教室のセキュリティ対策を含む）、指導者の確保や運営体制など、スポーツ系の活動に比べて検討すべき事項が多岐にわたるため、現時点では明確にお答えすることが難しい状況です。

とりわけ、楽器の管理は最も大きな課題となっています。これまでは校内での活動を前提とし、楽器は学校備品として扱われており（保護者会等で購入した楽器は除きます）、その修繕費や新規購入費は教育委員会の予算で対応してきました。

今後、部活動が地域クラブへと移行する場合、こうした費用をどのように確保するのか、また楽器の管理をどこが所管するのかといった点について、検討・議論の余地が多く残されています。これらは他の自治体でも共通の課題です。

私たち松本市としては、「楽都（がくと）」と称される文化薫る城下町の魅力を今後も守り続けていくために、どのような形で吹奏楽の活動を地域移行していくのがよいか、保護者会の皆さまや顧問の先生方と意見交換を重ねているところです。

そのような中で、現時点では以下の4つのパターンが見えてきました。

① 単独校タイプ

現在、部員数がある程度確保できている学校において、部活動から地域クラブへとそのまま移行し、活動を継続するパターンです。指導者は兼職・兼業の先生が担当することが想定されます。

② 合同バンドタイプ

複数校の吹奏楽部が集まり、1つの地域クラブを形成するパターンです。指導者は地域指導者が務め、兼職・兼業の先生がサポートする形が考えられます。

③ 合同部活動タイプ

複数校の吹奏楽部が合同で部活動を行うパターンです。指導者は、兼職・兼業の先生が当番制で担当することが想定されます。部活動としての実施となるため、令和8年度中に地域クラブへ移行する必要があります。

④ 地域クラブ合流タイプ

例えば、小学校の金管バンドに合流して活動するパターンです。この場合、コンクールへの出場はありませんが、地域での演奏会などが発表の場となります。指導者は、地域の指導者が担当することが考えられます。

主に学校施設を使用することが想定されるため、今後、セキュリティや鍵の管理などの整備が必要となります。こうした整備に要する予算や改修期間を確保するには、相応の時間を要するため、過渡期の対応としては、先生方のお力をお借りしながら運用していく必要があると考えています。

また、楽器の管理についても、委託による一元的な管理体制を整備することが望ましいですが、こうした体制が整うまでは、引き続き学校活動の一環として継続していく可能性が高いと考えています（あくまで現時点での想定であり、今後の状況によっては対応が変更となる可能性もあります）。

今後も、保護者の皆さまや関係者の皆さまと丁寧な意見交換を重ね、吹奏楽部にとってより良いあり方を模索してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



まつチャレ一覧に掲載の団体数（令和7年5月23日時点）

スポーツ 42団体・文化5団体 **合計47団体**（内令和6年度補助金受給団体は12団体、令和7年度補助金受給団体は3団体）



まつチャレ通信では皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしています。「こんな特集をしてほしい」などのご要望がありましたら、コチラから投稿をお願いします。→ <https://logofom.jp/form/N7tm/791864>